

秋植球根類の植込み方

植込みの時期

本道では早いものは八月中旬に始まり晚いものは十月上旬に植込みするが、多くは八月中下旬が適期である。

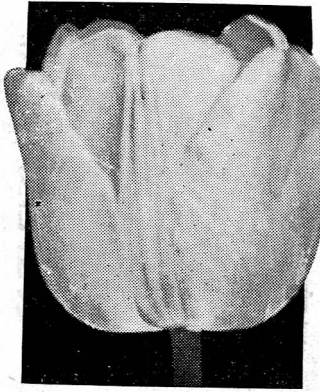
水仙は地温が高くと根が伸びるから八月中に植込むと結果が良くまた百合の中でもひめ、すかしの系統は同様に根の伸長速度が鈍いから早植して十分根を張らせる。

チューリップは十月に植込んでよく、グッチアイリスは早植えすると秋に萌芽するから十月に入つてから植込むがよい。

百合、水仙等の花園に植込んであるものは、毎年掘取りせず二〜三年はそのまま放置して差支えない。

植込みの方法

球根の栽培距離は同一種でも、球の大小またはその目的によつて異なるが、下表は球根育成の場合における成球の標準であるから、切花、花壇等は狭くする。



ブライトオブザナーンパーク

覆土は圃場の土質により、軽い土、乾燥し易い土地の場合は下表より深くし、重粘質または多湿のところは薄くする。しかし浅過ぎると地上部の生育が劣り分球が多くなり深過ぎれば生育おくれ萌芽が困難となる場合も生じて来るから注意を要する。

積雪が少なく土壤凍結の烈しい地帯では種類によつては越冬困難なものもあるから冬期間の覆土を厚くして置き、翌春三月中旬に標準程度に薄くする。ことに府県系統の百合、アイリス等はその必要がある。

植込みは営利栽培の場合は普通な床(幅六〇〜九〇釐とし、床間三〇釐を通路とする)に植込むが、草丈の高い鹿の子百合類は畦幅四五釐、株間一五釐の一条植とする場合もある。

一般家庭花園ではクロッカス、ヒヤシンス、水仙等は花木の間に植込み、チューリップの跡地には七月上旬に、雞頭、ペチュニヤ、マリーゴールド、松葉牡丹等を苗植えすれば晩秋まで続開して花園が賑やかになります。この場合、品種毎に十球以上を一カ所に植込めば集団的な美しさを増し、品種の混合も避けられて好都合である。

植込みの際に芽を必ず上方に向け、側方や下方に向けないよう注意を要する。平床の植込みは予め整地した床面に所定の距離に球根を並べ、移植鋺で穴をあ

けながら球根を押しつけて穴に入れ埋める。この場合球根を安定させるため植込み後平鋸等で床面を圧さえ、また覆土の薄い場合は通路の土をかける。

家庭花園であれば施肥がよく土と混和した上に球根を並べ指先で穴をあけて植込み、覆土するが地表より高くならぬようにする。

植込畑の準備

球根を植込みする畑地は、日当りがよくやや軽く排水の良好な所を選ぶ。畑地は十分深耕して土中の石ころその他の大きな混りもの取除く。平床の場合は所定の床中に表土一五釐を両側に掘上げて、腐熟堆肥その他の肥料を施して更に一五釐の深さに鋤込みよく土と混和させる。その上に両側の土を上げ整地する。

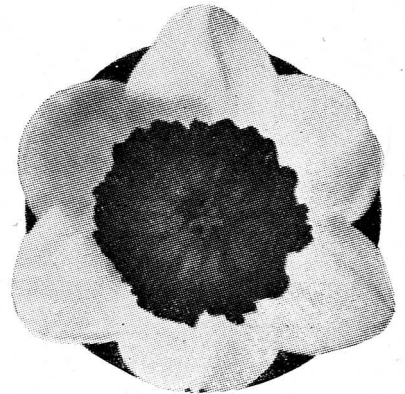
なお濃厚肥料は一旦醗酵させて肥料土として、左記の乾燥肥料と同様に床上に撒布して十分鋤込んでから植込みする。

施肥量(坪当)

- 油粕 二〇〇瓦 魚粕 二〇〇瓦
- 草木灰 五〇〇瓦(又は加里五〇瓦)
- 過石 八〇〇瓦
- (乾燥肥料は四〜五リットル)
- 乾燥肥料の作り方

- 例(1) 魚粕 一五立 米糠 四立
- 草木灰 四立 土 二〇立
- 例(2) 油粕 一五立 米糠 五立
- 草木灰 四立 土 二〇立

以上をそれぞれ調合して、水を注ぎよく混ぜて均等に湿らせたものを、雨水の入りぬやう筵等で被覆して醗酵させる。二週間



水仙・セルマ・ラガロフ

を經てから更に水を灌ぎ握られる程度によく混ぜて前と同様にして、一カ月を經て完全に醗酵を終つたならばこれを貯蔵して置き使用する。

球根類栽植基準表

種	植込みの深さ	球根間の距離
クロッカス	二〜三	八〜一〇
ヒヤシンス	二〜三	三〜五
すいせん	二〜三	二〜三
チューリップ	二〜三	二〜三
黒百合	一〇	一〇
ひめ百合	一〇	一〇
鉄砲百合	一〇	一〇
すかし百合	一〇	一〇
やま百合	二〇	二五
鹿の子百合	二〇	二五
イリス類	二〇	二五
秋植グラジオラス	二〇	二五
アネモネ	二〇	二五
レラ	二〇	二五
ムスカリ	二〇	二五

註 植込みの深さとあるは、球の高さに對する覆土の厚さ。